

仙台大学 広報室



Monthly Report

OB石原守剛さんが中国・瀋陽師範大学大学院を修了



栄誉証書と卒業証書を手に笑顔の石原さん＝瀋陽師範大学

中国の国費留学生として、平成22年9月～平成25年6月まで瀋陽師範大学いしはらもりたけ大学院体育科学学院体育教育訓練学専攻で学んでいたOB石原守剛さん（H22年体育学科卒－沖縄県立普天間高校出）が無事に修士課程を修了し、7月10日（水）、朴澤学長に同大学院の修了報告を行ないました。

中国の国費留学ではこれまで東北師範大学大学院、上海体育学院大学院を修了した本学の卒業生はいましたが、瀋陽師範大学大学院の修了者は初めてとなります。

石原さんは「瀋陽師範大学大学院には、19カ国の留学生が在籍していた。この留学を通して、多様な価値観に触れることができた。主体的に行動することの大切さや言葉が通じない相手とのコミュニケーションの方法を学ぶことができ、自分の成長を実感している」と話し、「苦勞して学んだ中国語を生かし、郷土貢献のため沖縄観光コンベンションビューローへ就職できるように頑張りたい」と力強く決意のほどを語りました。

仙台大学では現在、スポーツ科学を中心とした分野で11カ国20大学と国際交流を行ない、学生に豊かな学びの場を提供しています。

目次	
OB石原守剛さんが中国・瀋陽師範大学大学院を修了	1
現代武道学科 海外武道実習	2
ノアフン国民大学教員・学生が被災地でのボランティア活動を見学	4
平成25年度海浜実習報告	5
校長職就任祝賀会、宮城県・仙台市新規採用教員激励会を開催	6
学生の競技結果	8

学生の活躍や、取組みをご存知でしたら
広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関
にも旬な話題を提供していきたいと考えて
おります。

本誌へのご意見・ご質問等がございま
したら、広報室までご一報ください。

広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

渡辺誠司 271

土生佐多 200

Email:kouhou@sendai-u.ac.jp

若井副学長が上越教育大学の名誉教授に就任



名誉教授の称号の証書を読み上げられる若井副学長



前列右から3人目が若井副学長

平成25年7月5日（金）、上越教育大学にて、若井彌一副学長へ名誉教授を授与する式典が執り行われました。若井副学長は上越教育大学第六代学長として平成21年4月から平成25年3月末まで同大学の発展のために尽力されました。

この間、若井副学長は、教育委員会等との連携強化や教育の改善・充実など中期目標・中期計画を着実に実施するとともに、文科省審議会答申を踏まえ大学改革に向けた取組を推進しました。また、上越教育大学の課題である大学院の定員充足を3年連続で達成しました。また、東日本大震災や新型インフルエンザの対応など、緊急時においても教員養成大学として適切に対応しました。

若井副学長は授与に際し「このような式典を実施いただき、誠にありがとうございます。これからも上越教育大学の発展を祈念し、外側から支援・協力していきたいと思えます。」と述べました。

式典後は上越市内の別会場において、上越教育大学名誉教授との情報交換会が賑やかに開催され、名誉教授となった若井副学長は、在職当時の教員や事務職員と懐かしく談笑されました。

<情報・写真提供：上越教育大学>

現代武道学科 海外武道実習



7月2日(火)～6日(土)の日程で「海外武道実習」が実施されました。この実習は、現代武道学科のみに開講されている科目で、海外における武道教育に関する学習体験の場として、本学と提携している韓国等の大学を中心に実施され、日本の武道および海外の武道を通じて警護・警備について学習することを目的としています。今回は学生16名および引率教職員が4名の計20名が龍仁大学（韓国）において2度目の実習を行いました。龍仁大学は、武道、体育科学、芸術、産業情報、自然科学、保健福祉の6つの学部が設置されており、武道学部の下に柔道、柔道競技指導、格技指導、東洋武芸、テコンドー、テコンドー競技指導、警護の7つの学科をもっている総合的な大学です。

派遣学生は主に警護学科の科目を受講しました。（受講科目：テロリズム、消防安全教育、警護発達史、剣道親善競技、情報保安論、犯罪予防論、警護方法論、射撃実習）

また、滞在4日目には、ソウル特別市地方警察庁ならびにソウル歴史博物館等を視察見学しました。実習中は授業や生活のサポートとして龍仁大学の学生に支援して頂き、短い期間ではありましたが言葉の壁を越え非常に良好な関係が築かれた実習となりました。

<報告：現代武道学科事務担当 中鉢芳尚>

<学生インタビュー>



くらしわかずま
倉澤和磨さん（現代武道学科
2年一福島・小高工業高校出）

私が実習で一番印象に残っているのは、剣道親善競技です。実際に龍仁大学の学生と剣を交えてみると、攻めは常に積極的でどんどん間合をつめてきて、思わぬタイミングで打ってきます。その点は日本の剣道とは全く異なり、ある意味とても新鮮でした。稽古では言葉は通じなくても大声を出しながら剣を交えることでコミュニケーションを取ることができ、合同稽古が終了した後は、とてもすがすがしい気持ちになりました。これを機に外国の剣道についてもっと知りたいという気持ちが高まりました。

第7回 NPO法人日本スポーツ栄養研究会 総会・学術集会(7月5日～7月7日)報告



岩田講師の発表の様子
テーマ：栄養士養成課程の学生が行うスポーツ選手の栄養サポート活動に関する研究（第一報）～活動に対する意識～



早川准教授の発表の様子
テーマ：クレアチン摂取がやり投げ選手のパフォーマンスに及ぼす影響について

連日30℃を超える猛暑の中、神奈川県立保健福祉大学において第7回NPO法人日本スポーツ栄養研究会総会・学術総会が開催されました。今大会は『世界で戦うためのスポーツ栄養活動』をテーマとして行われました。国立スポーツ科学センターを始め、国立健康・栄養研究所による成果や実績が報告され、他大学からも多くの研究発表がされました。本大学からは早川公康准教授、岩田純講師、服部恵未子新助手が口頭発表を行いました。

3日間を通して「ロンドンオリンピックでの栄養サポート活動」や指導者の立場から考えるスポーツ栄養と給食、「サプリメントの現状とドーピング」など多方面から報告・発表がされました。その他、各企業の展示ブースが設けられ、参加人数も過去最多になるなど、活気あふれる大会となりました。

本学においても運動栄養学科で運動栄養サポート研究会が設置され、現在では13の部活に対して栄養サポート活動を実施しています。日本でもいち早くスポーツ栄養を取り入れ、実践力を養うためのカリキュラムが組み込まれています。設立10年目を迎え、より一層の発展のために必要となる内容が今大会で数多く報告されていました。

岩田純講師により運動栄養サポート研究会の活動に対する意識について報告され、今後活かすべき課題としてマネジメントが挙げられると感じました。スポーツ選手に対するマネジメント方法が確立しつつあり、集団の中で目標の異なる選手にどのように栄養サポートを行うかが重要になります。運動栄養サポート研究会が設立されてから今日まで、個別ではなく集団に対する指導が主となっていました。設立10年の節目を迎え、今後は選手一人ひとりに合わせたサポート活動を行うことが新たな課題となると感じました。

今大会において幅広くアスリートに対する栄養サポート活動や指導方法を学び、最先端の情報・知識を深めることが出来ました。学生も参加可能な大会ですが、存在を知らないがために参加しない学生も多くいるのが現状です。今回学んだことをより深めながらスポーツ栄養に携わることを目標としている学生に伝えられるよう尽力しなければならないと感じます。

また、私たちが参加することでこのような大会の存在を伝え、学生が取り組みやすい環境づくりを行う必要があると感じました。

今大会をきっかけに、運動栄養学科の教職員だけではなく、部活動の顧問の先生方、本学の専門分野に精通する方々の力も借りながら学科、ひいては大学の発展に貢献できるよう努めたいと考えます。

今回開催されたNPO法人日本スポーツ栄養研究会は来年度から学会として新たなスタートを切ります。学会の発展に負けぬよう、この大きな決意を表明し、第7回NPO法人日本スポーツ栄養研究会・総会学術会の報告といたします。

<報告：運動栄養学科新助手 千葉慎太郎・西川里美>

ノアフン国民大学教員・学生が被災地でのボランティア活動を見学



本学と国際交流協定を締結しているデンマーク・ノアフン国民大学教員のサンヌ・ミケルセン氏とマリア・ラーセン氏、学生のモートン・ニールセン氏が7月12日（金）に、被災地である亘理町の公共ゾーン仮設住宅集会所でおこなわれている災害ボランティア活動を見学しました。

今回は実際に参加者の中に入り一緒に運動を体験され、「被災された方々がこのように運動できる場所があるのは素晴らしい」とお話をされました。亘理町の参加者も日本語で書かれたデンマークのパンフレットを見ながら、デンマークについて大変興味深くお話を聞いていました。また、日本での運動指導に興味を持たれており、今回のボランティア活動はとても参考となったようで、今後福祉の先進国とも言われるデンマークのノアフン国民大学との交流がさらに深まることが期待されます。

<報告：スポーツ健康科学研究実践機構>

留学生親睦野球観戦



7月4日（木）プロ野球東北楽天ゴールデンイーグルスVS千葉ロッテマリーンズの試合を観戦してきました。前日の試合が雨で中止となり、当日の天気も危ぶまれましたが、曇り空独特の夕焼けのもとで試合は進んでいきました。途中、楽天の球団アドバイザーを務める本学のマーティン・キーナート副学長も同席して下さり、一緒に場を盛り上げ

て下さいました。

この日の試合は首位攻防戦の大事な一戦ともあり、お互いのサポーターも熱い声援を送っていました。そんな一戦を人生で初めて野球を観るといふ留学生もいて、新鮮な眼差しで大いに試合を楽しんでいました。結果は、楽天がホームランを2本放ちロッテに8-4と快勝。近くのお客さんと勝利を分かち合いました。この日の結果を経て楽天は、球団創設以来初の6月以降の首位獲得となりました。私たちが歴史的勝利に立ち会えたのも、観戦チケットを提供して下さった鹿島建設様のお陰です。この場をお借りして御礼申し上げます。

<報告：学生支援室 茗荷谷なつみ>

学生支援室前期反省会・デフリンピック壮行会



学生支援室前期反省会が7月18日(木)に行われました。今年の前期反省会は、例年とは一味違い、本学陸上部のささきたくま 佐々木琢磨君（健康福祉学科2年—盛岡聴覚支援学校出）のデフリンピック出場への壮行会も兼ねて行われました。デフリンピック（英語：Deaflympics）とは、4年に1度、世界規模で行われる聴覚障害者のための総合スポーツ競技大会のことです。

壮行会では、佐々木君からの意気込みを手話で話してもらい、ノートテイカーによって応援のメッセージが書かれた色紙を佐々木君へ渡しました。緊張していると話しながらも、終始笑顔だった佐々木君がとても印象的な壮行会でした。

前期反省会では、おいしい食事と成人にはアルコール類、未成年にはソフトドリンクが振る舞われ、学生とともに語り合い、楽しい宴となりました。最後には、お決まりとなったビンゴ大会が行われ、教職員・学生、一丸となって楽しむことができ、学生との親睦もともに深めることができたと感じています。

<報告：学生支援室 佐藤由佳>

マリンスポーツ中心の実習で見た仙台大学魂 —平成25年度海浜実習報告—



実習開始



大遠泳前の編隊作り①



大遠泳前の編隊作り②



大遠泳



大遠泳後の感動



カヌー教室



燃えたD級のレクリエーション



参加女子学生の柳下朝実(中央)

先生方の指導の下、きびきび動く学生の姿に感動すら覚えました。
宮城先生はじめ多くのサポートスタッフに心から御礼申し上げます。

<7月14日(日)見学：副学長 阿部芳吉>

今年度の海浜実習が、7月13日から2泊3日の日程で、受講生80名、補助学生を含めた指導スタッフ37名で、例年どおり山形県鶴岡市由良浜海水浴場で行われた。開学以来の実習ではあるが、由良浜では今年で33回目の開催となった。私(丸山)も久しぶりに前日の準備から全日程に参加したが、由良での30周年を最後に、それまでの大遠泳を中心とした実習から、遠泳も行われるが、マリンスポーツ(カヌー、フィッシング、スキndaイビング)をふんだんに取り入れた内容となり、規模も縮小されたものになっていた。

最終日午前中まで、時折雨の降るあいにくの天候の中、A、B、C級は小遠泳、カヌー、フィッシング、スキndaイビング、救助法と、予定された内容を消化し、D級はカヌー以外は、永田先生の指導の下、最後の遠泳に向けひたすら泳ぎ込む練習が続いた。

そして最終日午後、由良の空も遠泳を歓迎してくれたかのように晴れ間を覗かせ、例年どおりA、B、C級がD級をサポートする形の隊列を組み、(大)遠泳が行われた。白山港から沖に出て本部前に上陸する約1時間の予定の遠泳であったが、結果は所要時間71分、遠泳中も含め一人も船に上がることのない完璧な遠泳であった。私も由良も含め長いこと実習に参加してきたが、かつてより時間は短いとは言え、このような完璧な遠泳は初めてであった。

実習生の一人、柳下朝実やぎしたあさみ(体育学科1年一福島・南会津高校出、女子バレーボール部)は、初日の午後の小遠泳で脱落后も、志願しそのままC級に留まり、最後の遠泳では遅れることなく泳ぎ切った。「最初は怖かったが、徐々に自信がつき、遠泳後の達成感は何とも言えない。またカヌーが楽しかった。」と感動と充実した実習を振り返っていた。彼女も含め参加学生は、また一回り大きくなり、一人前の体育大学生となったことと思う。これも宮城先生をはじめ指導に当たった教職員、特に補助学生のサポートがあったからこそ達成できたものである。感謝して報告としたい。

<報告：本部長 丸山富雄>

学科一日体験会を実施

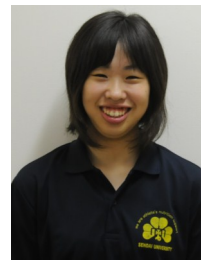


運動栄養学科一日体験会の様子

毎年、仙台大学では、本学の「中身」をもっと知ってもらい、納得のいく大学選びをしてもらうために「学科一日体験会」を実施しています。

今年度は、7月13日（土）に体育学科&スポーツ情報マスメディア学科及び運動栄養学科、7月14日（日）に健康福祉学科、7月20日（土）に現代武道学科の「学科一日体験会」を実施し、323名という多数の生徒や保護者の方々がご来場下さいました。各学科の特色ある授業を受講され、仙台大学についてより理解を深めて頂けたなら幸いです。

お越し下さいました皆様、誠に有難うございました。



<学生インタビュー>

あべはるな
阿部遥奈さん（運動栄養学科
1年一宮城・東北高校出）

私も高校3年生の時に、運動栄養学科の一日体験会に参加しました。いくつか栄養系の大学のオープンキャンパスにも参加しましたが、運動栄養学科の先輩による「運動栄養サポート研究会」の活動内容を聞いて、とても興味を持ち、堂々と活動について発表をしていた先輩たちの姿に憧れ、受験を決意しました。

今回立場が変わり、一日体験会の補助学生を担当しました。当時を思い出しながら、参加生徒に対し、親切で丁寧な対応と運動栄養学科の良さが伝わるよう心がけました。参加生徒から栄養に関する専門的なことを聞かれましたが、応えることができませんでした。もっと勉強して、次に補助学生になった時には、しっかりと質問に応えられるようにしたいと思いました。

仙台大学同窓生の第14回校長職就任祝賀会、第3回宮城県・仙台市新規採用教員激励会を開催



左から津久井・菊地・青山の各校長



挨拶する新規採用の長尾教諭(中央)

7月27日（土）、KKRホテル仙台で「仙台大学同窓生の第14回校長職就任祝賀会、第3回宮城県・仙台市新規採用教員激励会」が行われ、朴澤学長・阿部・若井両副学長はじめ同窓生や本学関係者約70名が出席しました。

今回校長職に就任されたのは、鶴ヶ丘小学校のきくち のりゆき 菊地 範行 校長（第10回生）・横倉小学校のあおやまひろゆき 青山博之校長（第11回生）・将監西小学校のつくいたかゆき 津久井隆之校長（第12回生）の3名。また、宮城ながおゆたか 県・仙台市に新規採用された教諭は、長尾 豊 教諭（第25回生）ら11名。

校長職に就任された方々からは、大学時代のエピソードや校長として新たな気持ちで学校経営に取り組んでいくとの決意が述べられ、また、新規採用された教諭の方々からは、喜びの言葉や、仙台大学出身者としての自覚・誇りを持って仕事に臨みたいなどの抱負が語られました。

阿部副学長や大内教授、吉田事務局長も登壇され、校長職就任者及び新規採用教員に対し、激励の言葉を述べて会場を盛り上げました。

カリフォルニア州立大学ロングビーチ校の短期交換留学生在が 柴田町を表敬訪問



前列左：阿部教育長・右：滝口町長、後列右端：古谷氏
＝柴田町役場特別会議室

7月29日（月）、米国・カリフォルニア州立大学ロングビーチ校の短期交換留学生7名（スポーツマネジメント専攻の大学院生）及び同大マネージングディレクターの古谷仁氏が、柴田町の滝口茂町長と阿部次男教育長を表敬訪問しました。

表敬訪問では、留学生6名が英語で(古谷氏が通訳)、1名が日本語で自己紹介を行ないました。続いて、滝口町長が「柴田町によろこそ。留学期間は二週間と短いですが、日本の伝統文化に触れ、日本に親しみを持ってほしい」と歓迎の挨拶を述べました。次に、阿部教育長が日本における英語教育の現状や課題について触れました。

本学で、米国からの大学の短期交換留学生を受け入れるのは、初めて。今回の留学のねらいは、「米国スポーツとの比較を通じて日本のスポーツにおける歴史と文化を探る」というものです。日米のスポーツの違いを学ぶこと、日本語の習得、文化体験や被災地ボランティア体験学習が計画されています。

なお、留学生7名は、8月9日（金）まで本学で学び、8月11日（日）にカリフォルニアに帰国する予定です。

女子柔道部一第16回全日本女子ジュニア柔道体重別選手権大会 東北地区予選5階級制覇



5階級制覇した仙台大学女子柔道部の選手たちと南條和恵監督(前列左端)＝福島体育館



48kg級を制した佐伯(上)

7月7日(日)、福島体育館で「第16回全日本女子ジュニア柔道体重別選手権大会 東北地区予選」が行われ、8階級中5階級で仙台大学女子柔道部が制しました。

同大会は、2013年中に15歳～20歳になる者(中学生を除く)が対象の大会です。

仙台大学女子柔道部の5階級優勝選手は、
48kg級—佐伯真さえきまこと(体育学科2年—神奈川・桐蔭学園高校出)、52kg級—鈴木真佑すずきまゆ(体育学科3年—京都文教高校出)、57kg級—工藤千佳くどうちか(現代武道学科2年—青森・五所川原農林高校出)、63kg級—志賀真実しがまなみ(現代武道学科3年—福島・湯本高校出)、78kg級—大内さおりおおうち(現代武道学科2年—北海道・恵庭南高校出)。

今後5選手は、9月7日(土)～9月8日(日)に埼玉県立武道館(埼玉県上尾市)で開催される「平成25年度全日本ジュニア柔道体重別選手権大会」に出場予定。強豪選手に挑む仙台大学女子柔道部に、熱い声援をよろしくお願い致します。

男子サッカー部一天皇杯サッカー宮城県予選5回戦へ



上下…前半、DF中條がヘディングシュートを決め、3-0とする
|| 白石川サッカー公園グラウンド

7月7日(日)、白石川サッカー公園グラウンドで「天皇杯全日本サッカー選手権 宮城県予選」の4回戦(本学男子サッカー部は、4回戦からのシードで登場)が行われ、仙台大学男子サッカー部は社会人チーム「仙台サスケFC」と対戦しました。

仙台大学は、前半にDF児玉昇こだましよう(体育学科2年—柏レイソルユース出)がミドルシュートを決めて先制。その直後、左からのクロスにしむらこうじにFW西村光司にしむらこうじ(体育学科4年—ベガルタ仙台ユース出)がうまく合わせて、2-0。

さらに、右コーナーキックをDF中條渡なかじょうわたる(体育学科3年—宮城・東北高校出)が豪快に頭で合わせて、3-0。後半開始早々に1点を返されますが、追加点を与えずに3-1で勝利(前半:3-0、後半0-1)を収め、見事5回戦進出を決めました。

【9面に関連記事】

陸上競技部の佐々木琢磨(デフリンピック陸上競技日本代表)が宮城県知事を表敬訪問



左から本学陸上競技部の門野監督、ろうあ協会の浅野副会長、佐々木選手、村井知事、バレーボール日本代表の柳川選手、ろうあ協会の小泉会長

2013年7月26日(金)～8月4日(日)にかけてブルガリアで開催される聴覚障害者の国際的なスポーツ大会「第22回夏季ソフィアデフリンピック」陸上競技男子200mと4×100mに、本学陸上競技部の佐々木琢磨(健康福祉学科2年一盛岡聴覚支援学校出)が日本代表として出場します。

7月9日(火)、本学陸上競技部の門野監督と佐々木選手は、ろうあ協会の小泉会長、浅野副会長、同デフリンピックバレーボール女子日本代表の柳川選手(仙台市泉区在住)と共に宮城県庁を訪れ、村井嘉浩知事に同大会への出場の報告を行いました。

村井知事からの「県民に勇気と元気を与えてほしい。金メダルを目指して頑張ってもらいたい」との激励に対し、佐々木選手は「金メダルを目指し、全力を尽くしたい」と手話で決意を語りました。



村井知事から激励を受ける佐々木

男子サッカー部一天皇杯サッカー宮城県予選 準決勝進出



ハットトリックの活躍を見せたFW西村



後半、MF熊谷が強烈なミドルシュートを決めて、3-1とする

7月15日(祝・月)、仙台大学サッカー・ラグビー場で「天皇杯全日本サッカー選手権 宮城県予選」の準々決勝が行われ、仙台大学男子サッカー部は東北大学と対戦しました。

仙台大学は、前半開始早々、右からのクロスをしむらこうじFW西村光司(体育学科4年一ベガルタ仙台ユース出)が流し込み先制点を挙げましたが、その直後、相手のセットプレーから同点に追いつかれ、1-1。相手に守りを固められ、なかなか得点を奪えませんでした。CKから児玉昇(体育学科2年一柏レイソルユース出)が頭で合わせて、2-1と勝ち越しに成功し、2-1で前半を折り返しました。

後半に入ると徐々に仙台大学がペースをつかみ始め、MF熊谷達也(体育学科3年一柏レイソルユース出)が強烈なミドルシュートを決め、3-1。FW西村が冷静にPKを決め、4-1。1点を返され、4-2となりますが、FW西村がこの日ハットトリックとなる3点目を決め、仙台大学が5-2で東北大学に勝利しました。

準決勝は、8月4日(日)10時～「仙台大学サッカー・ラグビー場」で塩釜NTFCヴィーゼとコバルトレー女川の勝者と対戦します。

8大会ぶり2回目の天皇杯出場を目指す仙台大学男子サッカー部に、温かいご声援をよろしくお願い致します。